

* 詳細は、チラシやホームページ等でお知らせします。



入場無料

縄文雪まつり

■問合せ：北海道縄文世界遺産推進室 011-204-5168

- 日 時：2月6日（月）～12日（日）
- 場 所：北海道庁赤レンガ庁舎（札幌市）
- 共 催：北の縄文道民会議、北海道縄文のまち連絡会、札幌国際大学縄文世界遺産研究室
- 内 容：縄文土器などの出土品展示、北の縄文パネル展、北の縄文セミナー など



会員メッセージ

北の縄文道民会議 会員 久保田 美智子

～ 縄文の穴 ～

縄文人が一本の縄を纏って土器に押し付け装飾したのは何故だろう。

縄で、また、土器だったのは何故だろう。定住が先なのか、それとも土器が先なのだろうか？ 私たちがもう一度幼児のように、「何？ どうして？」と問えたなら、そして、その問いに
 応えてもらえたなら、或いは、「これは未解明です。一緒に学んでいきましょう。」と言って
 くださったら、縄文人も、囲んだ火のように心に豊かな火が灯ります。

博物館や遺跡を見学するときは、年齢を忘れ無知を恥とせず、「これは何ですか？」と聞きましょう。先生や学芸員の方は、無知な初心者を決して軽蔑したり馬鹿にしません。多くの先輩の方々から受け継いだ知識や学び読み解かれた事柄を惜しみなく教えてください。何故なら、皆さんは、縄文が大好きだから。学ぶ私たちも、縄文が大好きです。

遺跡見学や勉強会では、いつも時間が足りません。

現場に立ち柱穴や土器片を見ると、頭の中に必ず縄文人が浮かび上がります。

「発掘現場へいらっしやい。」と声かけしてくださった 南 悦子 さんに感謝です。

現場に立ってこそ分かる素晴らしさや大変な苦勞を知り、私は「縄文の落し穴」にはまってしまいました。この穴は深く
 て大きいのですが、尖った棒はありません。縄文を語り合える友とは、1万5000千年も語り合えます。

こんな素敵な穴に、あなたもはまってみませんか。心よりお待ちしております！



編集後記

皆様、明けましておめでとうございます。

“酉年”は“飛躍の年”です。この一年の皆様のご活躍とご健勝をご祈念いたします。

この度、「北の縄文」冬号を発行することができました。ご寄稿などご協力をいただいた皆様にお礼を申し上げます。創刊から多くの方々から好評をいただいております、これも偏に皆様のご協力、ご指導の賜と感謝しております。

今後とも、編集部一同、「縄文力」全開で、皆様にご愛読いただける編集に努めて参ります。

北の縄文道民会議は「私たちの力で北の縄文遺跡を世界遺産へ！」の実現を目指し、縄文文化の発信を行うこととしておりますので、“大願成就”に向け、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。（T、H）

編集・発行：北海道・北東北の縄文遺跡群の登録をめざす道民会議

編集長 谷 紘道 編集委員 岡田 和英

TEL 011-221-1122

FAX 011-221-0117

http://www.jomon-do.org/

E-mail ebisutani@cvt.chuo-bus.co.jp



平成29年1月発行



目次

- 北の縄文コラム 1
- 縄文遺跡が世界文化遺産に値する理由 2
- よもやまばなし/構成資産から/道内各地の活動 3
- 世界遺産登録推進フォーラム 4～7
- 縄文イベント情報/会員メッセージ 8

北の縄文コラム

「縄文文化に魅せられ

貸し切りバスの後部ボディに国宝「中空土偶」の全身がペイントされたバスを観たことがあるだろうか？ 縄文の魅力に取り憑かれた私が最初に試みた広報活動の手段だ。とても目立つ。

十数年前から知人のH氏に『これからの北海道に必要なのは縄文文化だよ。』と会う度に聞かされていた。あまり興味もなかった縄文文化ってどんな文化？

しかし、毎日に興味を持つようになり縄文文化の関連行事をお手伝いするうちに、すっかり縄文文化がライフワークになってしまった。

なぜ、縄文を好きになったか？

まずは、縄文関連の本に目を通して、フォーラムなどで考古学者の講話を聴き、発掘された環状列石や周堤墓、さらには、博物館や資料館でも考古学者の話や映像により深く学んだ。特に、神秘的な土器・土偶の数々を目に焼き付けて興味深く知るうちに、縄文の魅力に取り憑かれてしまった。

縄文のロマンを語るにふさわしい土偶や土器の美的センスの凄さに加えて、平均出生率は？ 平均寿命は？ 食料の捕獲・貯蔵方法は？ どんな交易を何故、そしてどのようにしていたのか？ アイヌ文化との関わりはどこまで？ など、とても興味深く不思議なストーリーを学んでいる。

さらに、4年前から「縄文旅」を企画して、道内の縄文施設や博物館をバスで巡ったり東北方面にも行き、行程中は考古学の先生にも同行していただき解説をお願いしている。人気商品で、お客様にはリピーターも多く、特に、女性ファンが多いのもこの「縄文旅」の特徴である。

いま、世界文化遺産登録に向けて、北海道、青森、岩手、秋田の4道県がスクラムを組んで挑戦中！



北の縄文道民会議 事務局次長 戎谷 侑男

縄文遺跡が世界文化遺産に値する理由

北海道縄文のまち連絡会

事務局 青野 友哉

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は国が認めた世界文化遺産の国内候補の一つです。そして、そう遠くないうちにユネスコへの推薦がなされ、国際的な評価を受けることになります。

では、あのエジプトの「ピラミッド」やペルーの「ナスカの地上絵」と同じ世界遺産となる「縄文遺跡の価値」とはどのようなものでしょうか。ここではその価値の一つを「貝塚」を例にして紹介しましょう。

現在、北海道内で構成資産となっている6つの遺跡のうち、伊達市の北黄金貝塚、洞爺湖町の入江貝塚と高砂貝塚の3つには、縄文人が食べた貝や魚、動物の骨が積み重なった「貝塚」が残されています。

考古学者は魚の背骨をみただけでその種類を見極められますので、縄文人がカレイやヒラメ、マグロなどを食べ、カニやウニといった今では高級な食材も口にしていたことがわかります。しかし、もっと大事なポイントは、縄文人が40種類以上の魚介類を利用し、四季を通じて食材を手に入れているということです。貝塚の断面をみると、春に捕れるニシンの層、夏が旬のウニ層、秋のシカ骨層、冬の力キの層といった具合に、オールシーズンの食材が積み重なっています。

つまり、縄文人の社会は年間を通して決まった場所に住んで、獲物を捕って暮らす「定住型の狩猟採集社会」だということです。このことは、移動に適さない土器や重たい石器を発明、竪穴住居に住んでいたことからいえます。

実は、世界の多くの狩猟採集民は獲物を追って住むところを変える「移動型」です。日本列島でも旧石器時代までは移動生活でした。では、「定住型の狩猟採集社会」のどこに価値があるのでしょうか？



▲北黄金貝塚の復元住居

世界的に「定住」は「農耕社会」とセットと考えられているので、狩猟採集で定住をしていたというだけで、他の国の人々は驚きます。縄文文化は良い意味で「ガラパゴス的」なのです。



▲貝塚断面のホタテとウニ

そして、この特異な暮らし方は、自然とうまく折り合いをつけながら、文化を発達させる良い方法だったのです。定住の重要性について考古学者の小林達雄氏は、「定住生活になると、それまで置き去りにされていた老人が村で孫を育てる役割となり、自分の経験を伝える。それが社会の知識の蓄積となり文化が発達した」といいます。縄文一万年の蓄積が、あの美しく繊細な亀ヶ岡文化の土器や漆器、漆塗光器土偶を産み出したのです。

定住によって文化が成熟するのは農耕社会と同じですが、生業という背景の違いはまったく異なる文化と歴史を産んだのです。現在、世界文化遺産は814件（H28年7月）あります。その大半は農耕社会によって生み出された資産です。狩猟採集社会による考古学的遺跡で世界遺産となっているのは10件程度。さらに「定住型」はアメリカの「ボヴァティ・ポイントの土壘」とセネガルの「サルーム・デルタ貝塚」しかありません。

縄文人たちは、資源と人口の問題をクリアしつつも定住する方法を編み出し、一万年間の文化の成熟を成し遂げました。その「定住型の狩猟採集社会」の証拠となるのが貝塚などの縄文遺跡群です。世界中の多くの人々に「縄文人の稀有な生き方」を知ってもらいたいものです。

縄文のまち連絡会

入れ歯みたいなこの写真は何に見えますか。福笑いの一部、ではなくて、縄文時代の遺跡から出土した、イノシシの牙で作った装身具です。現在、イノシシは北海道に住んでいませんが、道内の遺跡からは骨や子どもの形をした土製品などが出土しています。縄文人は、イノシシの子どもを舟で北海道に運んだり、骨などを用いて獲物がたくさん獲れるようお祈りをして祭祀をするものがあつたようです。



洞爺湖町教育委員会提供

■問合せ 伊勢堂岱縄文館
電話 〇一八六一八四一八七二〇

縄文時代後期の遺跡で、4つのストーンサークルや掘立柱建物跡、土坑墓、環状列石、時計型組石（下写真）などから構成されています。保存状態が良く、学術的な価値が高いことから、二〇〇一年（平成十三年）一月に国の史跡に指定されました。空港へのアクセス道路建設の際に発見され、遺跡範囲は、二〇平方メートルに広がっています。また、遺跡の東部には、一〇〇メートルを超える縄文時代の溝状遺構が発見されています。そして、その少し北にも環状遺構が発見されています。これは、戦国時代の比内浅利氏家臣の城跡と推定されています。木道を歩いて森を抜けると、そこから環状列石と白神山地が一望できます。一度、訪れてみては！



道外の縄文の構成資産から ②

伊勢堂岱遺跡「秋田県」

道内各地の活動状況

「静川遺跡から、今私たちに大切なものを！」

一万年以上も続いた縄文時代は豊かで平和な時代だったとされています。なぜ、縄文時代はそれほど長い年月平和な時を続ける事が出来たのでしょうか。そこには、人と自然との共生社会の確立にありました。取りすぎを回避すると云う経済観、自然を敬うと云う自然観、争いや妬みを回避してきた社会観、今私たちが忘れ欠けている「縄文のこころ」がそこにはあつたのでしょうか。

現在、全国で縄文時代の遺跡が次々と発掘され、縄文時代の研究が盛んに進められております。苫小牧でも「静川遺跡」が昭和57年に発掘され、現在国指定の史跡となっております。この郷土苫小牧においても長期に渡り縄文時代が続いていたのです。



まさに、すぐそこに縄文を学習、研究する貴重な遺跡があるのです。しかし、現在この遺跡は案内掲示板があり、一部遊歩道の計画が有りますが、市民が気軽に縄文時代を体感することも体験することもできません。「静川遺跡」の存在をとおして郷土の縄文をもっと深く知る事、また、縄文の文化や哲学を学ぶ事により現代の私たちが忘れかけているこころの豊かさ「縄文のこころ」が見えてくるのではないのでしょうか。私たちは、市民や将来を担う子供たちにその大切さを知ってもらうために、「静川遺跡」の保存整備を訴え、共に縄文文化を学ぶサークル「苫小牧縄文会」を創り活動しています。

苫小牧縄文会 会長 矢野 嘉一